

近着石刻関係書所収元代石刻リスト 10

森田 憲司

第13号に引き続き、近年に中国で刊行され、日本に入荷した石刻関係書のうちから、元代石刻の拓影や写真、あるいは録文を掲載するものを紹介する。なお、各石刻の名称には、筆者が拓影によって題額などから採録したものや独自に命名したものもあり、各書籍が石刻に附している名称とは同じではない場合が少なくない。碑刻の年代についても同じ。

固原歴代碑刻選編 寧夏人民出版社 2010年4月

拓影と繁体字録文。首題、碑末の建立記事などは録文されていない。

沈妙清墓売地券 至大3年(1310)正月25日(文中) 129p 拓影

陳子玉墓売地券 延祐6年(1319)9月3日(文中) 131p 写真

朱書

重修口壘義勇武安英濟王廟三門記(首題)

元統3年(1334)以降(文中の記事による) 133p、134p

碑陽・碑陰ともに拓影あり、録文は碑陽のみ、碑陰は題名

※図版の拓本は中央部が大きく断裂・剥落しているが、録文では読んである。また、録文の終わり3行目途中からの按語は、拓影に見出せない。録文は何かの文献によるものと考えられる。ちなみに、篆額は「重修武閣之記」(本書は誤読か)

重修朝那湫龍神廟碑記 元統3年(1335)5月15日立(本書) 135p

「現藏原州区文物管理所」、「原碑早年已毀」とあり、録文のみ掲載

蘭州碑林藏甘肅古代碑刻拓編菁華 甘肅人民出版社 2010年5月

拓影(カラー)と解題

勅賜華嚴海印水泉禪寺記并序(首題) 元貞元年(1295)乙巳朔己未日立 甘肅涇川縣博物館 58p

本書ではパクパ文聖旨を碑陽とし、漢文面を碑陰とする。

掲載されているのは上半部の拓影のみで、下半部は欠落。両端は不鮮明。掲載拓本では、首題は「嚴」以下しか、また碑末の日付は、「歳次乙未元貞」までしか、

読めない。

パクパ面の額は「鎮海之碑」と漢文で、漢文面の額はパクパ文。パクパ文字聖旨の下には漢字での題名があるがほぼ欠損。

以上から考えて、解題は旧拓もしくは何らかの文献によったものか。

大元勅賜雍古氏家廟碑（首題） 至元丁丑孟秋初吉 建 甘肅礼県 60p

有元重修文殊寺碑銘（首題） 泰定3年8月15日立石 甘肅肅南裕固族自治区 62p
碑陰：ウイグル文

亦都護高昌王世勲殘碑（本書） 至順2年（本書）碑末に“十月上旬吉日立石”とあり 甘肅武威 碑陰：ウイグル文、民国23年跋の拓本も掲載 63p

莫高窟六字真言碣（本書） 至正8年（1348）5月13日（日付） 甘肅敦煌莫高窟 70p

大元肅州路也可達魯花赤世襲之碑（首題） 至正21年（1361） 甘肅酒泉城門 72p

大元勅賜追封西寧王忻都公神道碑銘（首題） 至正22年（1362）11月立石

甘肅武威 碑陰：ウイグル文 75p

山東道教碑刻集 青州・昌樂卷 趙衛東主編 齊魯書社 2010年11月

拓影と繁体字録文、解題

重建昊天宮碑（首題） 至元27年10月下元日立石 碑陽拓影、録文は碑陽、碑陰 3p

大元降御香之記（首題） 大徳6年10月立石 7p

元殘碑 184p

重修方山龍神祠記（首題） 大徳11年4月8日立石 369p

この本については、いささかコメントを付しておきたい。青州すなわち益都や昌樂については、清末から民国にかけて、金石志が編まれたり、地方志の金石部分が充実していたりして、多くの元朝期石刻が残されていたことを知ることができ、筆者もなにか利用してきた。しかしながら、本書に収録された元朝石刻は、以上にとどまる。もしこれが現況だとすれば、この一世紀に失われたものは、あまりにも大きい。本書が、「山東道教碑刻集」と題している以上、濰坊や福山など、やはり民国地方志に多くの石刻資料が収録されている地域についても続刊されるのであろう。どの程度の数が収録されるのか注目したい。また、個別の石刻に関する問題としては、「重建昊天宮碑」が掲載されているが、この石刻は碑陰に刻された多数の題名が興味深いことが知られている。しかしながら、筆者がすでに指摘したように（「石刻の史料特性と課題：元朝の題名の場合」 2006年宋代史研究会・唐代史研究会合同夏合宿）、刻され方に問題があり、検討には拓影が不可

欠であるにもかかわらず、公刊を聞かない。本書でも拓影掲載が碑陽にとどまるのは、たいへん残念である。

濟寧歴代墓誌銘 李恒法・解華英編 齊魯書社 2011年2月

一部の拓影と簡体字録文、解題・注

故朝列大夫大司農丞致仕張公（楷）墓誌銘 泰定改元（1324）2月4日葬 45p

大元故翰林侍講学士通奉大夫知制誥同修国史兼經筵講官曹公（元用）墓誌銘有序
至順元年6月26日 51p 拓影あり

故曹文献公（元用）妻東平郡郭夫人婦埵誌 至元2年（1336）2月29日葬 53p

※濟寧知府方克勤墓誌銘 1376死去 宋濂撰 州志から抄出 54p

（もりた けんじ 奈良大学）